

# 平成29年度病虫害発生予察特殊報第1号

平成29年10月31日  
愛 知 県

1 病虫害名：ヒサカキワタフキコナジラミ *Pealius euryae* (Takahashi)

2 発生作物：チャ

3 発生地域：県内

4 発生確認の経過

- (1) 平成28年6月上旬に、一部地域の茶園において、茶株内の地面に近い枝の葉裏に白い綿状物質に覆われた種不明なコナジラミ類幼虫の寄生が確認された。平成29年5月上旬に前年と同一地域の茶園で、茶株内の葉裏に産卵中の白色のコナジラミ類成虫と卵が産み付けられた茶枝を採取した。持ち帰った卵を愛知県農業総合試験場内で飼育したところ、白い綿状物質に覆われたコナジラミ類幼虫が発生した。名古屋植物防疫所に同定依頼したところ、本県未発生ヒサカキワタフキコナジラミと同定された。
- (2) 平成29年7月時点、今回発生を確認した地域以外で本種の発生は確認していない。

5 国内における発生状況

チャでの発生は、平成27年10月に埼玉県で初めて確認された。平成29年7月に静岡県においても確認が報告された。

6 本種の形態及び特徴

成虫の体長は約1.0mm、体色は白色である(図1)。幼虫は小判状で淡黄色をしており、周囲に長い糸状の白色綿状物質をもつ(図2)。終齢幼虫の体長は成虫とほぼ同じである。成虫は新芽や新葉に集合して吸汁加害するほか、大量の卵を新葉の葉裏に産卵する(図3)。また、幼虫は葉裏に生息して吸汁加害するとともに、白い綿状の分泌物を出し、葉裏全体を覆うようになる(図4)。成虫、幼虫ともに茶株内の直射日光が当たらない枝に好んで寄生する(図5)。現在のところ、茶樹の摘採面上における新芽・新葉への寄生は確認されていない。しかし、埼玉県では、茶株内に葉を伴った枝がない場合、摘採面の内側の葉に寄生することが報告されている。

7 被害

本種は成虫、幼虫ともに新芽及び新葉の葉裏に集合して寄生し、葉裏全体が白い分泌物等で覆われる。また、幼虫の吸汁被害(図6)と、分泌される甘露によって下位葉に灰色のすす病が発生する。

ただし、茶園における生息場所は、地面に近い直接日光が当たらない葉に限られているため、茶生産における被害は現在のところ報告されていない。

8 寄主植物

チャ及びヒサカキ

9 防除対策

- (1) 本種のチャにおける生態に関しては十分な知見がない。そのため、発生ほ場での寄生状況には十分注意する。
- (2) 摘採面において本種の発生が見られた場合は、最寄りの農林水産事務所農業改良普及課または農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室に相談する。
- (3) 平成29年10月31日現在、チャにおいて本種に適用のある農薬はない。

10 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室  
電話 0561-62-0085 内線471



図1 成虫 体長は約1mm程度



図2 葉裏に寄生する幼虫  
(白い綿状物質を分泌する。)



図3 葉裏に産下された卵とふ化幼虫  
(卵の周囲は白く汚れる。)



図4 多数の幼虫に覆われた葉裏



図5 本種が発生した茶株内部の葉  
(白い綿状物質が葉裏からはみ出し  
寄生が確認できる。)



図6 本種の吸汁による葉への被害